

新ホール計画に関連して

	タイトル	意見等
1	徳島県の活性化とホール・アリーナ建設に関する提言	徳島県在住の県民です。 日頃より、徳島県の発展のためのご尽力に深く感謝申し上げます。 私は、徳島県で活動するプロバスケットボールチーム「徳島ガンバローズ」を熱心に応援しております。チームの活躍を通じ、県外から移籍してきた選手を追いかけて多くの方が徳島を訪れ、実際に地域の活気が生まれているのを肌で感じております。 この流れをさらに加速させるためにも、ホールやアリーナといった交流拠点の整備は、県外の方の利便性を高め、観光と地域経済を活性化させる大きな鍵になると確信しております。 徳島県において長年議論が続いているホール建設についても、ぜひ早期の実現を強く願っております。本音を言えば、高校時代から徳島に新ホールができることを待ち望んでいました。 徳島市立内町小学校を移設し、その跡地にホールが計画された構想図を新聞で見た時には、「駅近くにこんな素敵な街ができあがるのか!」と楽しみにしたものです。 今思っても、利便性がよく県外の方も利用しやすく、1番いいなと感じます。小さなホールを建てて使用用途が縮小したものより、観光資源を増やし文化を増やす豊かな未来に繋げていただけたら。 県外から選手を応援しに来てくださる方々にとって、宿泊や交通の利便性を含めた観光環境の整備は喫緊の課題です。ホールやアリーナといった交流拠点が整うことは、単なる施設の充実にとどまらず、県外からの集客力強化や、県民の誇りとなる街づくりに直結すると確信しております。 スポーツと文化を核とした「人が集まり、住みやすく、訪れたい街」をスピーディーに実現していただきたいと考えております。 一県民として、徳島がより魅力的な地域へと進化することを切に願っております。 お忙しいところ恐縮ですが、ご一考いただけますと幸いです。
2	藍場浜公園を活かした石上純也氏案の再考について	新ホールの建設について、一県民として意見させていただきます。 現計画のご成婚広場がホール予定地になっていることについては、車両基地を文化センター跡地に移転させて駅の高架化を早期に進められるため、非常に賛成しております。徳島駅とホールの道中にアミコビルがあることでビルの活性化に繋がることや、水辺の賑わいづくりにふさわしいこと、眉山やボードウォーク、阿波おどりの会場と近いことも、大きなメリットだと捉えています。 しかし、計画されている1500席という規模は県を代表するホールとしては中途半端であり、築55年を迎える阿波銀ホールの隣に建てると景観的にも微妙で、単に長年のホール問題を終わらせるためだけの妥協の産物になりかねません。素晴らしい施設を作ろうという熱意が見えず、建築費は高くなるのに安かろう悪かろうの建物になってしまわないか非常に心配です。 阿波銀ホールも築55年と老朽化が進んでおり、将来的に建て替えが必要になった際、両ホールの役割やテーマが、建築家が意図したものとチグハグになってしまいます。それならば、いっそ阿波銀ホールも解体し、一から一体的なグランドデザインを描き直すべきです。 石上純也氏が設計された「花びらホール」の案を、藍場浜公園の敷地に合わせて修正するのはどうでしょうか。当初案にあった「ホールの壁面への映像投射」を藍場浜公園側から見える形で実現できれば、阿波おどりの期間中、藍場浜演舞場の出口の奥に映像が映し出され、素晴らしい景観が生まれるはずですよ。 最近の展覧会問題をめぐるトラブルにより、知事と石上氏の関係性が拗れてしまった今、このような形に落ち着かせることは現実的に無理なのだろうとも思います。しかし、県民が望むのは勝った負けたの政争ではなく、徳島の100年先を輝かせる最高のホールです。 どうか知事におかれましてはこれまでの喧嘩腰な態度を改め、より良いホールを建てるために柔軟で大局的な判断ができる県政になることを心から祈ります。

新ホール計画に関連して

	タイトル	意見等
3	石上純也展などについて	6月1日から6月6日までの新聞の記事を読み、疑問点などを記します。 1. 県の新ホールの従来計画の基本協定が解除されていないにもかかわらず、別案を進めているのはなぜですか？契約が解消されていないならば、まずは設計・施工を担うJV関係者に解除の理由を説明し、先方が納得した上で、解除すべきではないでしょうか？しかしながら、石上さんの案が実現するならば、瀬戸内海の直島のミュージアム、犬島のアート施設、豊島のミュージアム、新たにできた高松のあなぶきアリーナと共に、日本・世界のアート・建築に興味のある方々が多く訪れる文化的巡礼地のひとつになったであろうのに、と残念でなりません。石川県の金沢21世紀美術館、宮城県のせんだいメディアテークなど、建築デザイン自体が素晴らしい施設がひとつでも実現すれば、日本中・世界中から文化度の高い人々がそれを体感するためにやってくる＝にぎわいが生まれるのをご存じないでしょうか？ 2. 県は展覧会中止要請の理由を、石上さん案とは別に進めている「新ホール整備計画を止めるための企画だと判断した」「行政手続きにストップをかけるのが目的のイベントだとはっきりしている」「にぎわいづくり構想に合致しないと判断」など述べたようですが、展覧会の開催がなぜ「止める」ことになるかと判断したのでしょうか？開催は石上さんが会見で語られたように、石上さんが一生懸命考えたプロジェクトを皆に見てもらう目的だったと思います。実際、私自身、石上案の実現を楽しみにしていたので、その実現可能性がなくなった今、せめて模型や図面だけでもこの目で見たい、と思っています。県民も展覧会を見て、新ホールについて、より深く考える良い契機になったはずです。「にぎわいづくり構想に合致しない」についても、展覧会が開催されれば、多くの人が万代町に集まり、にぎわいが生まれたのではないのでしょうか？石上さんの模型や実施設計図面他が展示されるならば、県民のみならず、県外からも多くの建築関係者、建築学生たちが徳島を訪れたはずで。 3. 会場は港湾用地に当たり、「利用目的については県の指示や要請に従うこと」との趣旨の覚書に基づき、県は会場の所有者に貸し出し中止を要請した、また「（所有者には）開催する権限がある。県が要請しても、法的には強行もできた」と知事は述べられたようですが、「要請に従うこと」と言う側が「強行もできた」との発言は矛盾していませんか？もし実際に「強行」したとしたら、立ち退きなど制裁を与える規約があるのではないかと想像します。新ホールのプロジェクトをどう進めるのがよいのか、大きな視点でポジティブな考え方で進めていただきたいと思います。徳島県には文化価値の高い魅力的な公共の現代的資産がひとつもないと感じています。だから人が集まらないのです、阿波踊りとお遍路さんの他にも、やっとう世界的に誇れるホールが実現すると思っていただけに本当に残念です、しかも、設計者に対してひじょうに失礼なことばかり起こってとても悲しく恥ずかしいです。
4	Abemaを見て	徳島県民・徳島市民として、今回の新ホール計画には強い疑問を感じています。特に、私は当初の石上さんの設計案の方が、今の案よりもずっと良かったと思っています。最初の案には、まだ納得できる魅力や方向性がありました。それに対して、今の進め方は、なぜ変更になったのか、何を優先して今の案になったのかが見えず、県民・市民として非常に不信感があります。事業費、設計の妥当性、維持管理費、周辺との関係など、説明が不十分なまま話が進んでいるように感じます。これだけ大きな事業であれば、もっと丁寧に説明し、県民・市民の声を聞くべきです。少なくとも、「最初の石上案の方が良かったのではないか」という点について、なぜ変更されたのか、どこが問題だったのかをはっきり説明してください。県民・市民を納得させられないまま巨額の事業を進めることには、強く反対します。

新ホール計画に関連して

	タイトル	意見等
5	徳島新ホール計画における知事の公約違反・税金浪費・言論統制に関する抗議	知事に申し上げます。 2023年の知事選で「1800席・200億円は高すぎる、工事費を半分に抑える」と公約し当選されました。しかし現実はどうでしょうか。 旧計画を覆し、建設地を変更し、土地を返還し、事業者公募を2度行った結果、新計画の建設費は200億円を超えました。削減どころか、旧計画より高くなっています。これは公約違反です。その間に投入された調査費・移転費・公募費はすべて県民の税金です。何のために旧計画を潰したのか、県民には全く理解できません。 実施設計まで完了し、工務店も決まり、2027年開館目前だったものを白紙に戻した。その判断のツケを、今まさに県民が払わされています。 さらに許しがたいのは、今年6月に日本建築家協会が主催する石上純也氏の展覧会を、開催3日前に県有地を盾に中止させたことです。県民が旧計画の全容を初めて知る機会を、「県のまちづくりにつながらない」という理由で潰しました。これは情報隠蔽であり、民主主義の根幹である県民の知る権利を侵害するものです。石上氏自身が「現代の日本でこのようなことが起きるとは想像していなかった」と公の場で述べています。国際的な建築家にそう言わせる県に、誰が次のプロジェクトを任せようとするのでしょうか。徳島県の信用は建築業界において地に落ちています。 知事は「タイムスリップすることはない」「前に進んでいる」と繰り返されます。しかし県民が見ているのは、公募2度失敗、費用は増大、計画は迷走、情報は隠蔽という現実です。タイムスリップしているのは、公約を果たせないまま言い訳を重ねる知事自身ではないでしょうか。 公共ホールは竣工後、数十年・百年単位で県民が使い続ける施設です。拙速な政治判断で後世に禍根を残すことは絶対に許されません。 以下を強く要求します。 1. 知事就任後、旧計画変更に関連して投入した全費用の総額を即時開示すること 2. 展覧会中止に至る県の判断過程と、誰が指示したかを公表すること 3. 今後の計画について、根拠ある費用・スケジュール・場所を県民に明示すること 4. 「工事費を半分に抑える」という公約が達成不可能であったことを、県民に正式に謝罪すること 「前に進んでいる」と断言するならば、言葉ではなく結果で示してください。県民は見ています。
6	新ホール計画関連	先般 石上案の展覧会を中止させた件で おそらく多数の投稿があると思うが どうも情報が錯綜しているので 整理してキチンと説明してほしい。 具体的な項目として 1. 石上案は いまだに契約上は生きている とのことだが事実か？ なぜ解約していないのか？ また設計費はいくらで その支払いはどういう状況か？ 2. 設計者側は 図面は完了し いつでも着工できる といっているが 自分がかつて確認した際には 法的に問題がないことの確認作業は未完（全館避難安全検証法などで）計画通知の手続きは出来ていない と県側より説明があった（この目安箱での回答）。事実はどうなのか？ 3. 概要図がHPに公開されたとき 自分から数点の疑問や図面の不備を指摘したが それに対する回答や説明は皆無である。大ホールを囲う円形の構造体の足元（基礎部）が幽霊のように消えている。構造図を開示してくれといっているが どうなっている？ 設備系図面は皆無だが意匠図との整合性は確認したのか？雨水排水計画も不明。杭や基礎回りも不明で耐震性は大丈夫か？全体として図面の信頼性は どうなのか？ 4. コスト削減で 当初案から規模や仕様を変更しているが その妥当性はだれが確認したのか？ 5. 今回の展示は 図面の信頼性をチェックする良い機会である、ぜひ開催させて欲しい。 見に行きたいし。

新ホール計画に関連して

	タイトル	意見等
7	新ホール展中止問題について	なぜこのように大きな問題になっているのでしょうか。今後の県政運営に必要だと思いますので分析し公表を求めます。 石上案の協定が継続中にもかかわらずこれを封殺するような動きは到底理解は得られません。 文化センター跡地（石上）案と現在進行中の藍場浜案の比較検討及び県民の理解を得られるように、もう一度県民の民意を問うために県民アンケート実施を求めます。 状況が変わっていますので過去の民意はあてになりませんしこれ以上強引に進めることのないようにお願いします。